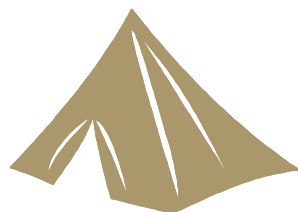


東北6県の

# 魅力あふれる キャンプ場



新型コロナウイルスの流行から2年以上が経過し、“三密”を避けられるキャンプ人気年々高まる中、特色ある施設やアクティビティを提供するキャンプ場が増えている。

ベテランからビギナー、親子連れやソロキャンパーまで、自由度が高いキャンプならではの顧客ニーズに応えようと、各地でさまざまな取り組みが行われている。中でも特徴的で魅力あふれるキャンプ場を各県1カ所ずつピックアップした。

雄大な自然の中で、

さまざまな体験を



キャンプ場からは岩木山を一望できる

## 青森県 つがる市 つがる地球村オートキャンプ場

青森県の中西部に位置するつがる市は、豊かな自然に囲まれ、全国有数のメロン産地として有名だ。その魅力あふれる地域にある「つがる地球村オートキャンプ場」は、津軽富士と呼ばれる岩木山を一望でき、雄大な風景を満喫できることから、人気を博している。最近ではキャンプ熱の高まりもあって県内外からの利用客も多く、その数は毎年増加し、本年度は累計1万人を突破する見込みだ。

高速道路の津軽自動車道つがる柏ICより車で20分ほど、鯉ヶ沢町や弘前市、五所川原市などにも隣接するつがる地球村は、1993年7月にオープンした複合リゾート施設で、感動の国、遊びの国、スポーツの国、寛ぎの国、アウトドアの国の5つのエリアで構成される。アウトドアの国エリアにあるオートキャンプ場はA・B・C・Dの4サイトから成り、区画数は109。中庭にはバーベキュー施設があるほか、2カ所の炊事場やシャワー、コインランドリーなどが整備されている。Bサイトの中央には野菜畑があり、キャンプ場利用者は有機栽培で育てられたナスやキュウリ、ミニトマトなどの夏野菜を自由に収穫して食べることができる。夏時期に訪れる子どもたちは、収穫体験に興味津々で、楽しみながら取り組んでいるという。

また、昨年9月、新たにオートキャンプ場のシンボルとして、モンゴルの移動式住居「ゲル」1棟を配置した。これは、約30年前、旧車力村（現つがる市）がモンゴルから農業研修生を受け入れたり、現地で農業技術の指導を行うなど、農業を通じた交流をきっかけに寄贈されたもの。当時は3棟あったが、老朽化などの問題から解体し、1棟を復元した。内部には、テーブルや簡易ベッドなどの家具類



モンゴルから寄贈されたゲル

が設置されており、マットや寝袋等を使用すれば最大6人の宿泊が可能となる。テントを建てずに気軽にキャンプを楽しめることや、珍しい体験ができることから、初心者をはじめ、ベテランのキャンパーまで幅広い人気を集めている。

昨今のキャンプブームで「冬キャンプ」も注目を集めていることから、昨年度から新たな取り組みとして、これまで閉鎖していた11月から3月までの営業を一部区画で実施した。同地域は、豪雪地帯に指定されるが、週末は予約で埋まるほどの人気だったという。それなりの装備は必要だが、冬の醍醐味として、冷たく澄んだ空気の中で景色や星空が楽しめるとしてハマるキャンパーが多いのだとか。本年度も冬キャンプを実施する見込みで、この機会にぜひ足を運んでみては。

連絡先：TEL0173-26-2855

住所：青森県つがる市森田町床舞藤山244

料金：オートキャンプ場・大人1名650円、小人1名400円、一般サイト・1区画600円、AC電源付きサイト・1区画2800円など、ゲル1棟1400円

岩手  
県  
雫石町

# 道の駅に併設するキャンプ場

## 小柳沢砂防公園 キャンプ場虹色パーク



小柳沢砂防前のフリーサイト

小柳沢砂防公園キャンプ場虹色パークは、秋田と岩手の県境にほど近い、国道46号沿いの「道の駅雫石あねっこ」に併設された施設。道の駅は2001年にグランドオープンし、02年からキャンプ場の利用を開始した。

道の駅には、源泉かけ流しの温泉や朝どり野菜など四季折々の山の恵みが並ぶ産直、道の駅オリジナルの日本酒などを販売する物産館などがあり、昨年度からドッグランもオープン。旅行雑誌が実施する道の駅満足度調査で、21年度全国1193駅中2位を獲得した人気の施設だ。

道の駅の駐車場を進み竜川に架かる歩道橋を渡った左岸側に位置する虹色パークは、自家用車で乗り入れ可能なオートサイトと、区切りがなくスペースを自由に使えるフリーサイトに分かれている。オートサイトは約10m×約10m×10区画、約6m×約8m×11区画の全21区画。全区画にコンセントが完備されている。砂防前のフリーサイトは近くの駐車場が利用可能。聞

こえる水の声が心地よく快適な空間が広がる。オートサイトとフリーサイトの間には浅瀬を対岸まで渡れる水遊びゾーンも用意され子どもにも安心。

道の駅全体の利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年前から減少傾向にあるが、三密を避けながらも楽しめるアウトドアの需要が高まり、キャンプ場の利用者は増加。昨年の利用者は約6000人となり、感染症拡大前よりも増えた。県内から約6割、隣県などから約4割が訪れる。家族連れが中心だが近年はソロキャンパーの利用も増え、ドッグランにより愛犬を連れる人も多い。昨年度からはテントやタープ、バーベキューコンロなどを貸し出し、荷物を持たずに楽しむことができる「手ぶらでキャンプセット」のサービスを開始した。食材や食器のみの持ち込みで気軽にアウトドアを体験できる。

道の駅に併設されたキャンプ場は全国でも珍しい。道の駅での買い物、温泉など利便性が高いため初心者や家族連れに最適。ぜひ利用してみては。

道の駅にある「橋場温泉新はしほの湯」



連絡先：TEL019-692-5577

住所：岩手県雫石町橋場坂本118の10

料金：オートキャンプサイト（ラージ）約10m×10m・宿泊：1泊4500円、日帰り：3500円

オートキャンプサイト（レギュラー）約6m×8m・宿泊：1泊4000円、日帰り：3000円

フリーテントサイト・宿泊：テント1張2000円、日帰り：1000円

秋田  
北田  
市県

# 田沢湖レイクリゾート グランピングフィールド



グリルや椅子、タープなどを完備

キャンプ道具や食事の準備をしなくても気軽にキャンプを楽しめる体験「グランピング」が近年、新しいレジャーとして注目されている。秋田県仙北市の田沢湖レイクリゾートは、昨年10月からグランピングフィールドをオープン。隈研吾がプロデュースし、アウトドアブランドのSnow Peakが開発したモバイルハウス「住箱」で、快適なキャンプを楽しむことができる。

「住箱」は、約11㎡のトレーラーハウスで、内外壁はヒノキ合板、屋根はガルバリウム鋼板。内部にはキングダブルのベッドやソファとテーブル、冷蔵庫、お湯の出る洗面台やエアコンを完備している。定員は3人。外のウッドデッキにはテーブルや椅子、タープ、バーベキューグリルやたき火台があり、思い思いに楽しめる。

「駒ヶ岳を臨む広大な景色が自慢のひと

つで、住箱の窓は絵画のように自然と景色を映す『ピクチャーウィンドウ』と呼んでいます。空気が良いので星空も素晴らしいですよ」と越戸祐登支配人。2台の住箱が置かれたスロープ全体がホテルの土地で、キャッチボールやフリスビーなどで自由に遊ぶこともできる。

夕食はバーベキュースタイルで、ホテルシェフが下ごしらえをした食材を宿泊客が炭火で調理。アウトドア初心者の宿泊が多いこともあり、火の起こし方や焼き方のマニュアルも用意している。国産牛と比内地鶏のハーブマリネ、焼きリンゴなどが人気だ。食器や調理器具はSnow Peak製品で統一。「人気のブランドであり、『購入前に一度使ってみたかった』と言うお客様もいます」とのこと。たき火も好評で、静かな環境でくつろぐほかに、音楽を流して楽しむ客もいる。

コロナ禍で密を避けるレジャーのニーズが高いことや、ホテル泊に比べ他の宿泊客に気を遣う必要がないこと、手ぶらで楽しめてかたづけも不要な手軽さなどから、利用は堅調。豪雪だった昨冬も月に約50人ほどの宿泊客が訪れた。「今後は、近隣のアウトドアアクティビティや観光資源と組み合わせたプランを立ち上げて、より多くの方に利用していただきたいです」と越戸支配人は語る。

隈研吾プロデュースの住箱で  
快適、手軽に自然を楽しむ

木に囲まれたくつろぎの室内。ピクチャー



連絡先：TEL0187-46-2016

住所：秋田県仙北市田沢湖生保内下高野82-117

料金：平日1人・1万7000円～（日による）

山形県  
酒田市

## 庄内夕日の丘オートキャンプ場

迫力満点の航空機を観ながら宿泊



左・キャンプ場の丘から滑走路を一望  
上・飛行機の着陸(管理者提供)

「キャンプといえば山奥の人里離れた場所」という先入観を覆し、航空機の離着陸を観ながら宿泊を楽しめるキャンプ場がある。山形県酒田市の庄内空港に隣接する「庄内夕日の丘オートキャンプ場」だ。

このキャンプ場は庄内空港が整備された際に造成された緩衝緑地を活用したもので、オートキャンプ場は30区画(オートサイト26区画、キャンピングカー4区画)。炊事場と子どもが裸足で走れる芝生、夕日と滑走路を一望できる丘があり、航空機の離発着時刻は管理棟で確認でき、キャンパーだけでなく航空機愛好家も、時刻表をチェックして、写真撮影に行く。場所によっては轟音とともに頭上を通過することもあり、まさに迫力満点だ。「大の飛行機マニアが、東京から飛行機で庄内空港に来て、ここで飛行機

を観るためだけにキャンプして、飛行機で帰っていったこともありますよ」と管理者は語る。

また、湯野浜海岸(鶴岡市)まで車で数分とかならない好立地で、ベテラン宿泊者になると海水浴や磯釣りを楽しみ、湯野浜温泉で汗を流し、キャンプ場に戻って海の幸を捌いて焼いて食べるのが黄金のルーティンとなるらしい。酒田市の市街地にもほど近いので、海鮮市場や産直売り場でも食料を調達でき、キャンプ初心者の入門にも最適。夏には彼方に見える日本海に夕日が、「夕日の丘」名前の通りいい角度で沈む。

極め付けに、キャンプ場では結婚式も開催できる。ガーデンウエディングがブームとなった頃に、管理者が結婚式開催にOKを出したところ、SNSや宣伝なども手伝って新郎新婦の関係者以外にも近隣の地元住民が野次馬となって前代未聞の「キャンプ婚」に押し寄せ門出を祝福。キャンプ場の新たな売りとなった。

趣味が昂じた航空機撮影に、身近なところで手軽に自然を楽しみたい時に、人生の大切な1ページの演出に、多角的に活用できるこのキャンプ場は、日本海沿岸東北自動車道庄内空港ICからも1分弱(!)と、抜群のアクセスを誇っている。



キャンプ場結婚式の様子(管理者提供)

連絡先：TEL0234-92-4570

住所：山形県酒田市浜中粮畑33

入場料：大人420円、子供210円

サイト使用料：日帰り1区画1150円、宿泊3250円(7、8月以外の平日は1630円)

AC電源使用料：日帰り1区画500円、宿泊1区画1150円

大自然の中でキャンプ&ワーケーションを



コテージ。南向きの窓からは朝日が注ぐ

宮城県  
仙台市 IZUMI PEAK BASE

宮城県仙台市の北西部にそびえる泉ヶ岳は、山形県境となる舟形連峰に連なる標高1175mの山だ。四季折々のレジャーが楽しめ、小学生の遠足の定番コースになるなど、市民に愛されている。ここに7月28日、日本国土開発の「IZUMI PEAK BASE」がグランドオープンした。同社が所有していた遊休地を活用し、約9.5haもの広大な敷地を開発したキャンプ&ワーケーション施設だ。

仙台市街から車で40分ほどとなる山の中腹に位置し、都市近郊型アウトドアリゾートを冠する敷地内には、宮城県産の木材を90%以上活用するコテージを4棟建設した。延べ床面積は41㎡で、定員4人のコテージを3棟配置したほか、1棟は同54㎡で6人定員でバリアフリーにも対応する。各棟にペレットストーブや簡易キッチンなどの水回りを設置した。海に面した大きな窓からは、晴れた日に仙台市街や太平洋が一望できるのが見どころの一つ。美しい朝日を眺めながら、目覚めのコーヒーを飲む…最高の1日がスタートしそうだ。

泉ヶ岳という名前の通り、豊富な湧き水をもたらすことから、敷地内で温泉掘削し温浴施設を完備。このほか、オートキャンプサイト28区画、フリーサイト92区画相当を整備し、最大約500人が収容可能な一大施設となる。

また仕事と休暇を兼ねたワーケーションにも対応。Wi-Fi環境が整っているの、まさに自然の中の会議室として利用できる。今年の春には、

同社新入社員53人の研修も実施した。参加者は、屋外でのびのびと活動することで、より積極的な発言ができたという。

日本国土開発は、東日本大震災以降、東北各地で復興事業に取り組んできた。これからは、まちおこしに貢献したいと、今回の事業で新たな遊休地の利活用を提案する。プロジェクトを担当する岡田光太郎さんは「地域の方に愛され、一般の方にも満足してもらえるような施設にしたい。ここをスタートとして、全国展開ができれば」と意気込んだ。



プロジェクトを担当する岡田さん



完成パース

連絡先：TEL022-347-3356

住所：宮城県仙台市泉区福岡字岳山8-1

料金：フリーサイト3300円～、オートサイト：8800円～

ホームページ：https://peak-base.com/

# 目指すは県内一のSDGsキャンプ場

福島県  
猪苗代町

## 五右衛門 キャンプ場



外観と名前の由来にもなった「五右衛門風呂」

猪苗代湖や磐梯山など、景勝地が揃う猪苗代町。山あいの古湯・中ノ沢温泉を抜け、「ふくしまの水三十選」にも選ばれた達沢不動滝に向かう途中に、キャンプ場五右衛門がある。

五右衛門は、オーナーの泉秀憲氏が山を開拓し2010年にオープン。泉氏は「前職の先輩の別荘が猪苗代にあり訪れていたのが縁。福島市から車で1時間とアクセスもよく、近くに観光地や温泉がある最高の立地だ」と話す。

1日12組までの小規模なキャンプ場だが、特色ある施設が併設されている。キャンプ場の名前にもなっている露天の五右衛門風呂は、鋳物でできた本格派。地元林業者の協力ですらの間伐材を薪として使い、水は地下からくみ上げたアルカリ性の軟水により体の芯から温まり美肌効果も期待できる。夜に満点の星空を眺めながら入浴するのがオススメだ。

ロウリュサウナもこの名物となっている。泉オーナー自らが設計し、地元の宮大工が建てた、本場フィンランド式で、外観は北欧風、内装は県内産ヒノキ仕上げ、最大で6人が入ることができる。温度は70～110℃前後で、熱蒸気により髪や肌が潤うことからリピーターが多く、中には日帰りでサウナだけに入る人も。併設された五右衛門風呂で水

風呂に入れば、高地特有の澄んだ外気で“整う”ことができる。

また、子ども食堂などのイベントも積極的に開催している。そこにはSDGsへの想いが込められている。泉オーナーは「薪を上手く使えば脱炭素につながる。キャンプ場での子ども食堂も、子どもたちが食事を摂るだけでなく、SDGs勉強会も一緒に行っている」と話すとともに、「キャンプを通じ、自然を身近に感じてもらうことで少しでもSDGsのことを考え、子どもたちの未来につながれば。そのためにも県内一のSDGsに配慮したキャンプ場にしたい」と意気込む。

また泉オーナーは、カーボンニュートラルへの新たな取り組みとして、ヨーロッパの安全基準を満たしたスタイリッシュな鋼板薪ストーブを日本市場の約半値で設置・販売を開始した。普及のためにぜひご相談・ご連絡くださいとのこと。



薪ストーブと泉氏



フィンランド式のサウナ小屋

連絡先：TEL090-6511-9986  
住所：福島県猪苗代町蚕養大橋平乙3435  
料金：基本料金5000円/泊（トップシーズンは1000円増）、施設利用料1000円/名（小学生以下は無料）、サウナ：3500円/1時間30分貸切、五右衛門風呂：2000円/1時間30分貸切